

Top Interview

トップインタビュー

— 変革に挑む —

まとめ/堀水潤一 撮影/関本陽介

筑波大学
学長

山田信博



「新構想大学」として誕生。 今後は社会変化を的確にとらえ、 「未来構想大学」として発展したい

筑

波大学は、旧来の日本の大学のシステムでは解決困難な新たな課題を前に、抜本的な大学改革を行い、新しい構想をもつ総合大学として1973年に誕生しました。以来、国内外を問わず、あらゆる面で「開かれた大学」であるうとしてきました。社会との接点を常に意識し、交流・情報発信を続けることで、社会のニーズを敏感に感じとり、すばやくこたえる。そのため、狭い学問領域に閉じこもることなく、学際的・融合的な領域を創造、発展させてきました。私の専門分野で言えば、さまざまな場面で医学的知識が必要となるライフインベーションの時代にあつて、医学部は医師免許を取得するだけの学部ではいけないと思っています。

生物・農工学など他分野にも開かれるべきであり、大学院に「ヒューマンバイオロジー学位プログラム」を設けたのも、そうした考えの表れです。

本学関係者に3人のノーベル賞受賞者がいるなど世界的な研究拠点として評価されるいっぽう、教育熱心な先生が多いのも特長です。教育の成果を常に意識し、心をつくして学生に接する。これは教育大学としての伝統あつてこそだと思っています。学生の伸びしろを伸ばす大学、と言つていいかもしれません。データを読み解くと、2年次にぐんと成績を伸ばす学生が多いことに気づきます。最初から目的意識の強い学生や、右往左往している学生などタイプは多様ですが、入学後に学問に目覚

め、意欲を高める学生が目立って多いのです。

個人的には、とんがった子に期待します。社会が抱える課題に対して「おかしい」と感じたならば、通説に惑わされることなく、柔軟な想像力で新しい道を模索する。そうしたパラダイムシフトを試みられる人材です。成熟した社会に、わかりやすい答えなど用意されていません。問われるのは個々の力です。誰におもねることなく、わが道を行く。出る杭を心から応援したいと思っています。

日本の大学改革を先導する「新構想大学」として誕生以来すでに40年近くが経ちました。その間、社会は急激に変化しました。そうした動きをよく見つめ、「未来構想大学」へと発展していくつもりです。大学の国際的な競争力が問われている今、欧米の大学と比較して思つのは、いまなお学力試験に偏重した入試制度でいいのか。いつまでも親がかりで自立できない若者が本場にグローバル人材として育つのか、といったこと。セメスター制を視野に入れた2学期制への移行や秋学期入学の一部適用など、「国際的な互換性」を含め、あらゆることを見直すべき時だと強く感じています。

【学長プロフィール】やまだ・のぶひろ●1951年生まれ。東京大学医学部医学科卒業。医学博士(東京大学)。東京大学医学部附属病院助手、講師、同大学医学部助教授を経て、99年筑波大学臨床医学系教授。筑波大学理事・附属病院長を経て、2009年より現職。専門分野は内科学。

【大学プロフィール】1949年設立の東京教育大学を源流に、73年に開学。人文・文化学群、社会・国際学群、人間学群、生命環境学群、理工学群、情報学群、医学群、体育専門学群、芸術専門学群。